

1 長崎市の水産業



水産農林部

令和5年6月

目次

1 長崎市の漁業地域の概況	1-1
2 海域ごとの漁業経営と漁場環境の現状	1-2
3 長崎市の漁業生産量及び生産額	1-4
4 市内7漁協の現状	1-6
5 水産加工業の現状	1-7
6 水産物流通の現状	1-8
7 水産物の消費の現状	1-10
8 長崎市の漁港	1-12
9 水産センターの種苗の生産・供給	1-13

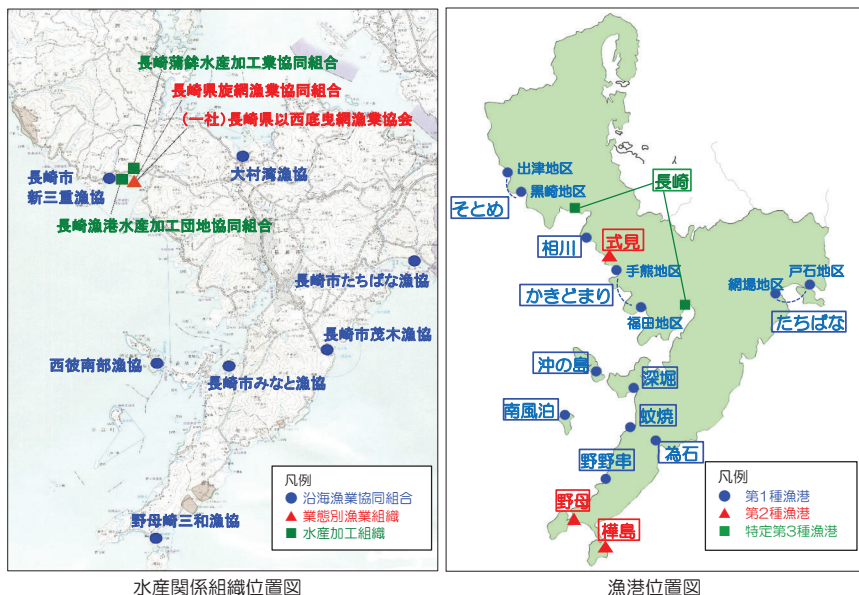
《参考資料》

所管施設一覧	1-14
長崎市の主な水産業振興制度	1-18

1 長崎市の漁業地域の概況

長崎市には7つの沿海の漁業協同組合*があり、また、業態別の漁業組織として、長崎県旋網漁業協同組合と一般社団法人長崎県以西底曳網漁業協会、水産加工組織として、長崎蒲鉾水産加工業協同組合と長崎漁港水産加工団地協同組合があります。

また、市内には、大小14の漁港*（うち、第1種漁港 10、第2種漁港 3、特定第3種漁港 1）が存在します。



※漁業協同組合（漁協）

水産業協同組合法に基づく法人で、漁業者の協同組織として、販売事業、購買事業などの経済事業及び共済事業、信用事業などの実施を通じた水産業の振興及び組合員の福祉の向上、漁業種の管理を中心とした資源や漁場の管理、水産業を核とした漁業地域の活性化等の広範な役割を果たしています。令和5年5月末現在、長崎市内には、7漁協（新三重、みなと、茂木、たちばな、西彼南部、野母崎三和、大村湾）があります。

※漁港

漁業に携わる人々が、漁獲した魚類の陸揚げや燃油の補給、船の停泊などのために使用する場所で、様々な施設が整備されており、利用状況により次のように区別されています。

- ・第1種漁港…利用範囲が地元の漁業を主とする漁港。市町村で管理。
- ・第2種漁港…利用範囲が第1種漁港よりも広く、第3種漁港に属しない漁港。都道府県で管理。
- ・第3種漁港…利用範囲が全国的な漁港。そのうち、国が指定する特に重要な役割を担う漁港を特定第3種漁港と呼びます。都道府県で管理。
- ・第4種漁港…離島その他辺地にあって漁場の開発又は漁船の避難上特に必要な漁港。都道府県で管理。

2 海域ごとの漁業経営と漁場環境の現状

現状

- 海底環境の悪化や磯焼け*など、漁場環境が変化しており、漁獲量に影響を与えています。
- 藻場*の保全や堆積物の除去など、漁場環境を改善させる取組みが、市内各地に広まっています。

- 長崎市は、橘湾海域、西彼海域、大村湾海域の3つに分けられ、それぞれ特性の異なる海域を有していますが、環境悪化による漁業への悪影響が生じています。

橘湾海域

西に長崎半島、東は島原半島に囲まれ、湾口は南西に大きく開いた橘湾に面しています。橘湾海域では養殖業が盛んに営まれ、他にも小型底曳網漁業や延縄漁業などの漁業種類が営まれています。

近年、海底環境の悪化が懸念されるほか、磯焼けの範囲が徐々に広がっています。また、夏場になると赤潮*が発生し養殖業などに影響を与えています。



西彼海域

対馬暖流が流れる五島灘に面しており、沿岸流との境界に多くの潮目*が形成され、変化に富んだ海洋環境となっています。西彼海域ではまき網漁業や養殖業が盛んに営まれ、他にも小型定置網漁業や刺網漁業、採介藻漁業など多様な漁業種類が営まれています。

長崎市内でも磯焼けの範囲が広く、刺網の主要魚種となるイセエビの漁獲量などにも影響しています。



大村湾海域

針尾瀬戸と早岐瀬戸の2ヶ所のみで外海と接している閉鎖性が強い大村湾に面しています。大村湾海域では、小型底曳網漁業や小型定置網漁業が盛んに営まれ、他にもカキや真珠の養殖業などの漁業種類が営まれています。

大村湾の水質は陸地の都市化の影響を強く受けるほか、湾内の水温は気温の影響も大きいため、夏季は30℃を超え、冬季は10℃を下回るなど季節変動が極めて大きく、毎年、夏の終わりから秋にかけて貧酸素水塊*が発生しています。



- 水生生物の生息場所となる藻場を保全・再生させる活動や、堆積物を除去し環境改善を図る活動など、漁場環境を改善する取組みが市内各地で行われており、活動する組織数も増加しています。
- 一部の地域においては、活動の成果により海藻が回復している箇所もありますが、過去にウニ除去を実施した箇所においても、浮遊してきたウニ類幼生の着底及び成長が確認される等、今後も海藻が減少する可能性があります。

漁場環境再生の取組みを行う組織数

【単位：組織】

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
活動組織数	5	7	9	10	11	12	12	12	12	12

(資料：長崎市)

※藻場（もば）

海藻（草）が繁茂している場所のこと。海藻（草）類を食べる生き物にとって重要な餌場になるだけでなく、魚介類のすみ場、産卵場、保育場になるため、「海のゆりかご」とも呼ばれています。また、水中の窒素やリンなどの栄養分を分解し、栄養塩類や炭酸ガスを吸収して、酸素を供給するなど海水の浄化に大きな役割を果たしています。

※磯焼け

外洋に面した岩礁や転石地帯で、今まで繁っていたコンブ、カジメなどの大型海藻類の群落が消え失せ、これまでは大型海藻の下草として生えていたサンゴモなどの石灰藻類だけが岩礁を白く覆ってしまい、大型海藻（クロメ、カジメ、ホンダワラ類、ワカメ等の海藻）が消えたままの状態が長い間続いてしまう現象。海藻がなくなり、焼けた後のように海底が白く見えることから磯焼けと呼ばれています。

※赤潮

植物プランクトンなどが異常に増えて、海が赤色や茶色などに染まったように見える現象。雨による山から海への栄養の流れこみや、水温や光などプランクトンが増殖しやすい条件が整った場合に発生します。赤潮が発生すると、プランクトンが魚のえらに触れ、えらに障害を起こして呼吸ができなくなったり、プランクトンが大量に酸素を消費するため海水中の酸素が不足して大量の魚が死んでしまうことがあります。

※貧酸素水塊

魚介類が生息できないほど、海水中に溶けている酸素の量（溶存酸素量）が少ない海水の塊。水中・泥中の有機物を餌として増殖するバクテリアの酸素消費が、酸素供給を上回ると貧酸素水塊が発生します。この貧酸素水塊が、強い風や潮の流れなどで岸辺や海面付近に上昇してくると、養殖魚など移動範囲が狭い生物の大量死につながることがあります。

3 長崎市の漁業生産量及び生産額

現状

■ 漁業生産量については、水産資源や漁場環境の変化などの影響により増減があります。以西底びき網漁業や大中型まき網漁業は減少傾向にあります。また、中小型まき網漁業や養殖業は増加傾向にありましたが、ここ数年は減少しています。

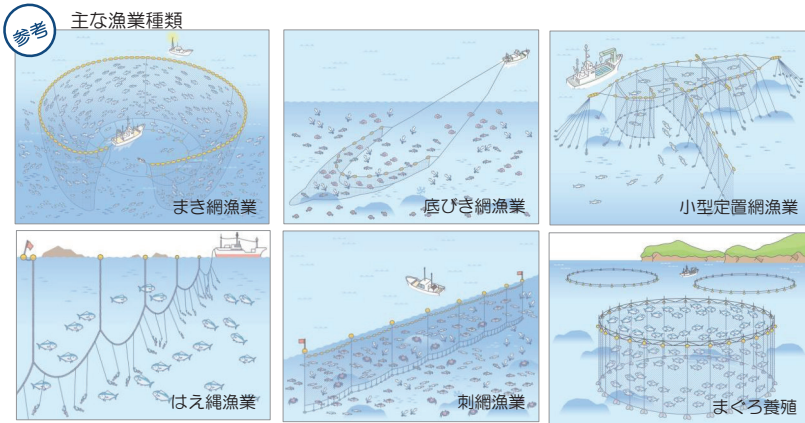
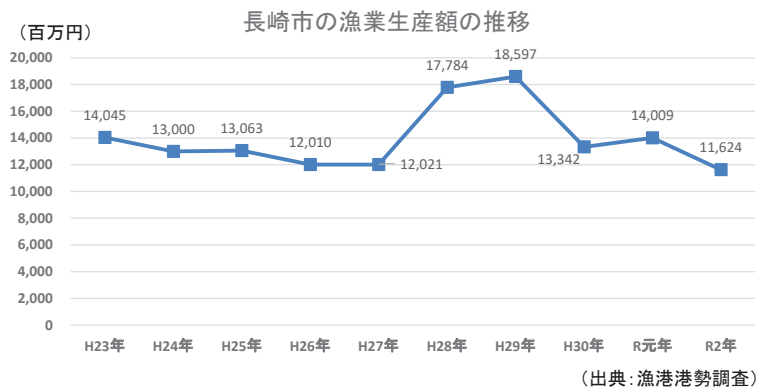
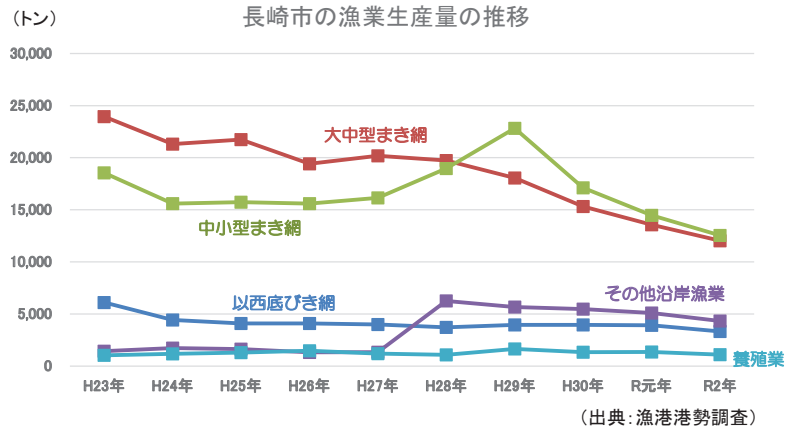
■ 生産金額についても生産量と同様に増減がありますが、近年は減少傾向にあります。

漁業種類ごとの海面漁業生産量の推移

【単位：トン】

漁業種類	年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全	国※	4,692.819	4,786.267	4,712.564	4,701.049	4,561.463	4,305.100	4,244.345	4,370.587	4,150.678	4,185.013
長	崎	321.172	273.348	271.020	275.620	333.367	329.724	330.164	316.830	254.009	250.966
長	崎	51.088	44.254	44.520	41.909	42.872	49.757	52.164	43.218	38.401	33.357
	以西底びき網	6.113	4.429	4.098	4.092	4.002	3.726	3.955	3.957	3.918	3.329
	大中型まき網	23.949	21.315	21.741	19.415	20.192	19.731	18.062	15.325	13.563	12.038
	小型底曳網	171	185	212	237	198	147	181	207	199	179
	中小型まき網	18,542	15,593	15,742	15,602	16,140	18,963	22,824	17,123	14,468	12,550
	敷網	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0
	刺網	225	229	231	148	124	265	244	315	316	279
	小型定置網	217	288	181	146	233	416	353	342	299	250
	かご漁業	7	29	44	31	38	39	36	40	34	30
	はえ縄	93	77	83	79	75	1,242	1,150	1,048	940	846
	いか釣	1	1	1	1	1	35	42	31	28	24
	一本釣	359	337	368	320	300	3,348	3,135	3,019	2,723	2,385
	採貝	11	12	14	11	20	44	15	23	18	13
	採藻	6	17	16	10	9	1	3	4	5	4
	その他の漁業	356	560	480	343	336	718	498	438	532	320
	小計	50,050	43,072	43,212	40,435	41,668	48,675	50,513	41,872	37,043	32,247
海面養殖業	魚類養殖	1,034	1,180	1,305	1,474	1,170	1,049	1,615	1,309	1,326	1,071
	貝類養殖	4	2	3	0	34	33	36	37	32	39
	小計	1,038	1,182	1,308	1,474	1,204	1,082	1,652	1,346	1,358	1,110
	漁獲金額（百万円）	14,045	13,000	13,063	12,010	12,021	17,784	18,597	13,342	14,009	11,624

(出典：漁港港勢調査、(※のみ)海面漁業生産統計調査)



4 市内7漁協の現状

- 現状**
- 平成24年度以降の漁協取扱漁獲金額は約60億円でしたが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少しました。
 - 組合員数は減少しており、高齢化も進んでいます。

漁協取扱漁獲金額の推移 【単位：千円】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
漁獲金額	5,765,957	5,632,341	5,444,451	6,144,750	5,923,613	5,915,362	6,074,094	5,830,139	4,671,473	4,601,451

(出典：漁協業務報告書)

- 令和3年度の長崎市内の組合員数は7漁協合わせて1,686人で、平成24年度と比較して、9年間で346人減少しました。令和2年度からの1年間で見ると、39人減少しています。

組合員数 【単位：人、%】

	平成24年度	令和3年度	増減	増減率(%)
正組合員数	1,014	645	▲ 369	▲ 36.4
准組合員数	1,018	1,041	23	2.3
合計	2,032	1,686	▲ 346	▲ 17.0

(出典：漁協業務報告書)

※長崎市外に本所、支所を有する大村湾漁協の漁業者を含む。

- 漁獲金額は減少（平成24年度：5,765,957千円→令和3年度：4,601,451千円）していますが、正組合員数が減少（平成24年度：1,014人→令和3年度：645人）していることから、平成24年度と比較して漁業者1人当たりの漁業生産額は約1,448千円増加しています。

漁業者（正組合員）1人あたりの漁業生産額 【単位：千円/人、%】

	平成24年度	令和3年度	増減	増減率(%)
漁獲金額/正組合員数	5,686	7,134	1,448	25.5

(出典：漁協業務報告書)

- 年齢別の漁業就業者数は、依然として60歳以上の割合が多く、全体の70%以上を占めています。

年齢別漁業就業者数 【単位：人、%】

	平成24年度		令和3年度		増減	増減率(%)
	人数	割合(%)	人数	割合(%)		
20歳未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20～29歳	12	0.6	14	0.8	2	16.7
30～39歳	43	2.1	37	2.2	▲6	▲14.0
40～49歳	161	7.9	102	6.0	▲59	▲36.6
50～59歳	375	18.5	242	14.4	▲133	▲35.5
60歳以上	1,405	69.1	1,259	74.7	▲146	▲10.4
法人等	36	1.8	32	1.9	▲4	▲11.1
合計	2,032	100	1,686	100	▲346	▲17.0

(出典：漁協業務報告書)

※長崎市外に本所、支所を有する大村湾漁協の漁業者を含む。

5 水産加工業の現状

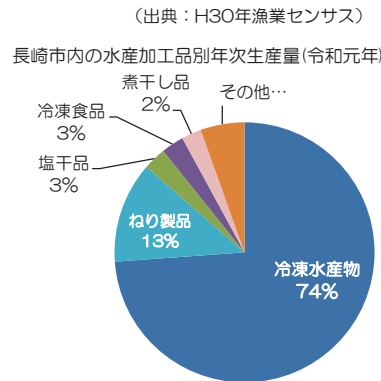
- 現状**
- 水産加工業は、小規模な加工業者が多く、生産量は減少傾向にあります。
 - 加工品の種類は、冷凍水産物がほとんどを占めており、高次加工品の生産は少ない状況です。

- 長崎県では、1事業所あたりの従業員数が5人未満の工場が全体の約37%を占めており、全国平均と比べ、小規模な事業者の割合が高くなっています。
- 長崎市内の平成30年時点の水産加工工場数は96で、焼津市、静岡市に次ぎ全国三位の多さです。

従業者規模別工場数（平成30年） 【単位：工場】

	1人	2人	3人	4人	5~9人	10~29人	30~49人	50~99人	100~299人	300人以上	計
全国	254	627	519	453	1,713	2,268	647	506	261	41	7,289
長崎県	32	67	31	30	120	104	23	12	7	-	426

- 水産加工業における生産量の割合は、冷凍水産物が74%を占めており、高次加工品は少ない状況にあります。
- 冷凍水産物を除いた水産加工品の生産量は、珍味等のその他加工品を除き、ほぼ横ばいから減少傾向となっています。

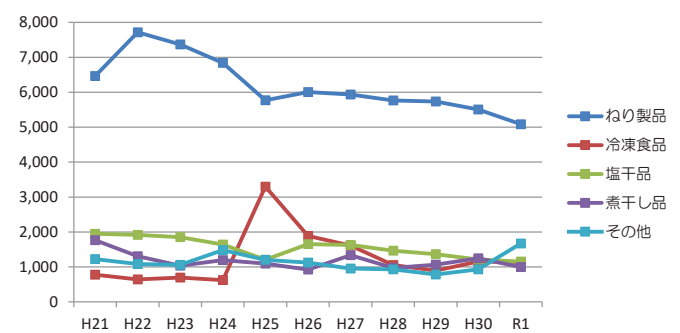


長崎市内の水産加工品別年次生産量 【単位：トン】

品目	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
ねり製品	6,461	7,717	7,371	6,838	5,768	6,055	5,936	5,766	5,737	5,505	5,085
冷凍食品	777	644	693	621	3,299	1,889	1,609	1,052	895	1,151	1,143
素干し品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
塩干品	1,948	1,919	1,853	1,642	1,205	1,653	1,631	1,465	1,366	1,212	1,151
煮干し品	1,765	1,308	1,037	1,191	1,091	922	1,337	971	1,064	1,249	996
塩蔵品	528	464	385	395	170	205	226	279	262	241	231
くん製品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
節製品	126	174	168	203	109	108	104	137	331	196	316
その他加工品(珍味等)	1,222	1,084	1,058	1,483	1,201	1,121	950	931	783	1,408	1,672
小計	12,827	13,310	12,565	12,373	12,843	11,952	11,795	10,601	10,437	10,961	10,594
冷凍水産物	48,652	48,063	48,624	48,863	47,328	43,011	48,125	45,800	49,230	49,666	29,923
合計	61,479	61,373	61,189	61,236	60,171	54,963	59,920	56,402	59,667	60,628	40,517

(資料：漁業センサス、水産加工統計調査水産加工（陸上）調査票をもとに長崎市が推計）

(トン) 長崎市内の水産加工品別年次生産量（冷凍水産物を除く）



(資料：漁業センサス、水産加工統計調査水産加工（陸上）調査票をもとに長崎市が推計）

- 水産加工組織について

長崎市内では、県内で水揚げされるアジやイワシなどを原料とした、かんぼこ（かまぼこ）の生産が盛んに行われており、その消費額は全国トップクラスです。

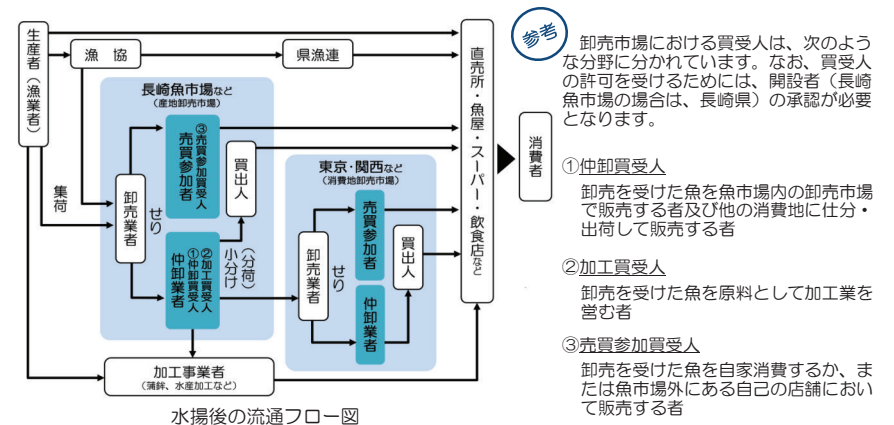
かんぼこの生産にあたり、長崎市内を中心とした蒲鉾製造業者による長崎蒲鉾水産加工業協同組合が組織されています。組合では、かんぼこの原料となるすり身の共同生産を行い、組合員へ安定的にすり身を供給しています。特にイワシのすり身は日本一の生産高を誇っており、組合の所有する加工場は、西日本でも屈指のすり身専門加工場として事業を展開しています。

また、長崎漁港水産加工団地における水産加工業の振興を図ることを目的として、長崎漁港水産加工団地協同組合が設置され、加工残さの処理、加工用水・海水の供給、加工品の販売事業、加工団地内のゴミの肥料化によるリサイクル等の取組みが行われています。

6 水産物流通の現状

- 水揚げ後の流通について

長崎市内で水揚げされた水産物は、漁協の共販事業[※]として長崎県地方卸売市場長崎魚市場（長崎魚市場）等の産地卸売市場へ出荷されるほか、長崎県漁業協同組合連合会の系統販売[※]や、加工業者・地元飲食店との直接取引が行われるなど、生産者や漁協独自による取組みが行われています。



※共販事業
漁協等が組合員の漁獲物や加工品を一括集荷して共同販売する事業のこと。

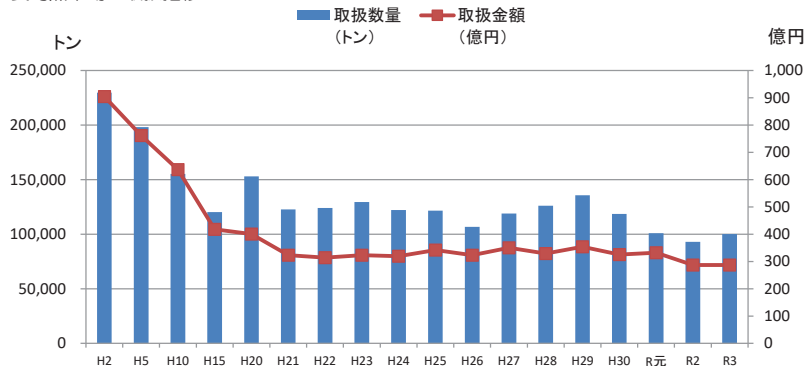
※系統販売
漁協等が上部系統団体（県漁連等）に出荷し、上部団体が一括販売すること。

● 長崎魚市場の概要

長崎魚市場における令和3年の取扱数量は約10万トン、取扱金額は約287億円で、近年は横ばいで推移しています。

長崎魚市場は全国の産地卸売市場の中で数量、金額ともに上位に入っており、多くの魚が水揚げされる重要な市場です。

長崎魚市場の取扱推移



(出典：長崎魚市場の概要)

参考 長崎魚市場株式会社における取扱魚種ランキング (令和3年)

長崎魚市場株式会社で取り扱われている魚種のトップ10をランキングとしてまとめました。取扱数量のトップ3は、サハ類、マアジ、フリで、全体数量の約7割、取扱金額は、マアジ、サハ類、マグロで、全体金額の5割近くを占めています。サハ類やマアジは長年にわたり上位を独占しており、小売店で見かけない日はなく、長崎の食卓には欠かすことのできない代表的かつ日常的な魚といえます。

また、このランキングでは、色々な魚種が取り扱われていることが確認でき、長崎は周辺の豊かな漁場や様々な漁業により、水産物に恵まれていることがうかがえます。

順位	取扱数量			取扱金額		
	魚種	数量 (トン)	全体比 (%)	魚種	金額 (百万円)	全体比 (%)
1	サハ類	16,074	30.0	マアジ	3,662	25.9
2	マアジ	15,942	29.7	サハ類	1,775	12.5
3	フリ	5,164	9.6	マグロ	1,210	8.5
4	ウルメイワシ	2,524	4.7	フリ	961	6.8
5	カツオ類	1,808	3.4	タチウオ	634	4.5
6	マイワシ	1,102	2.1	ムツ類	621	4.4
7	マダイ	1,023	1.9	ハタ類	479	3.4
8	キダイ	893	1.7	マダイ	461	3.2
9	タチウオ	876	1.6	イカ類	432	3.0
10	その他アジ類	807	1.5	カツオ類	406	2.9

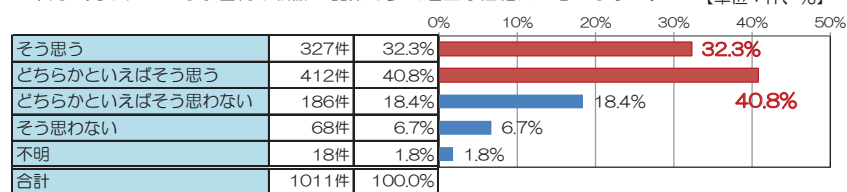
(出典：長崎魚市場の概要)

7 水産物の消費の現状

- 現状**
- 長崎市民の水産物に対する満足度や長崎の魚に対する認知度は高いものの、消費量は肉より少なくなっています。
 - 観光客が長崎市で水産物を消費する割合はあまり高くなく、長崎の魚の魅力を十分に伝えできていません。

- 市内で売られている水産物が新鮮で品数も多く適正な価格だと思う割合及びどちらかといえばそう思う割合は、約73%と高い数値となっています。

市内で売られている水産物は新鮮で品数も多く適正な価格だと思いますか。【単位：件、%】



(出典：令和4年度市民意識調査)

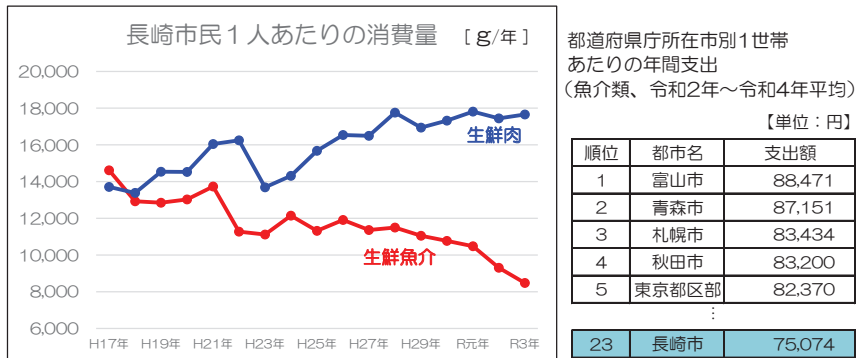
- ながさきの「食」市民意識調査によると、長崎市内で水揚げ・製造されている水産物及び加工品の認知度は9割以上であり、市民の長崎の魚に対する認知度が高いことがうかがえます。

長崎市内産水産物・加工品についての認知度 (市民対象) 【単位：%】

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
認知度	83.6	87.7	87.4	85.7	85.5	86.4	88.2	88.4	90.9

(出典：ながさきの「食」市民意識調査)

- 長崎市内での水産物に対する満足度及び認知度は高いものの、平成18年以降、生鮮魚類の消費量は生鮮肉よりも少なくなっています。
- 1世帯あたりの魚介類消費額は、全国52都市のうち長崎市は23位であり、豊富な漁獲量と魚種に恵まれた環境にあるものの、消費額はあまり高くありません。



都道府県庁所在地別1世帯あたりの年間支出 (魚介類、令和2年～令和4年平均)

順位	都市名	支出額
1	富山市	88,471
2	青森市	87,151
3	札幌市	83,434
4	秋田市	83,200
5	東京都港区	82,370
...		
23	長崎市	75,074

(出典：「家計調査結果」(総務省統計局))

- 市内農水産物直売所の販売実績は、平成26年度の30.7億円から、ほぼ横ばいで推移していますが、大規模の直売所の販売実績は上昇傾向、小規模の直売所の販売実績は減少傾向にあります。
- 直売所の数も平成23年度は30ヶ所あったものが令和3年度は19ヶ所に減少しており、地域に密着した小規模直売所の存続が課題であることがうかがえます。

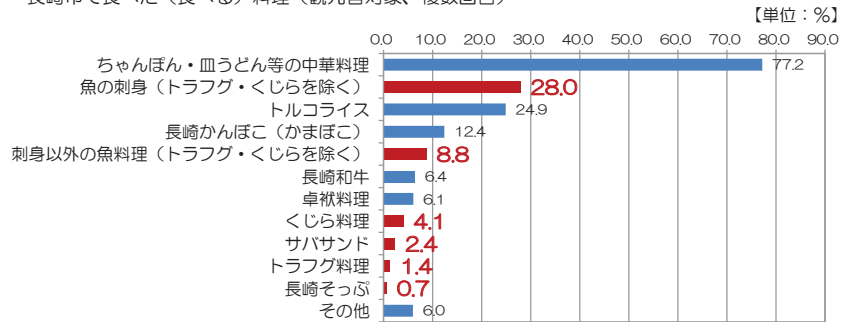
市内農水産物直売所の販売実績 【単位：億円】

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
販売額	30.7	31.0	29.4	29.0	28.8	28.9	30.1	29.6

(出典：令和3年度 市内農水産物直売所の販売実績)

- 長崎市を訪れた観光客へのアンケートによると、長崎市で食べた（食べる）刺身や魚料理の割合は36.8%、くじら料理やトラフグ料理、サバサンドなどを加えると45%を超えており、観光客に対して、「長崎の魚の魅力」が徐々に浸透してきていることがうかがえます。

長崎市で食べた（食べる）料理（観光客対象、複数回答）



(出典：令和3年度長崎市日本人観光客動向調査報告書)

8 長崎市の漁港

(1) 概要

現在、長崎市には、市が管理する漁港が10漁港、県が管理する漁港が4漁港あります。市が管理する漁港では、漁港内の海岸保全施設整備や防波堤の整備などの水産基盤整備事業やタラップ、係船環、照明灯などの安全管理施設の整備等の事業を実施しています。県が管理する漁港においても、防波堤、護岸、臨港道路等の整備事業を実施しています。

長崎市の管理漁港

区分 地区名	漁港名	漁港種別	利用隻数			漁協名
			漁船 (隻)	ブリッヤ ボート (隻)	計 (隻)	
長崎	相川漁港	第1種	5	0	5	新三重漁協
	かきどまり漁港	第1種	76	54	130	西彼南部漁協（旧福田漁協）
	深堀漁港	第1種	80	19	99	みなと漁協
	たちばな漁港	第1種	280	81	361	たちばな漁協
伊王島	沖の島漁港	第1種	26	7	33	西彼南部漁協
高島	南風泊漁港	第1種	16	4	20	西彼南部漁協
野母崎	野野串漁港	第1種	27	6	33	野母崎三和漁協
外海	そとめ漁港	第1種	43	24	67	みなと漁協
三和	為石漁港	第1種	77	29	106	野母崎三和漁協
	蚊焼漁港	第1種	62	35	97	野母崎三和漁協
琴海	—	—	—	—	—	大村湾漁協
合計	10漁港	—	692	259	951	—

(出典：令和2年漁港港勢調査)

長崎県の管理漁港

区分 地区名	漁港名	漁港種別	利用隻数			漁協名
			漁船 (隻)	ブリッヤ ボート (隻)	計 (隻)	
長崎	長崎漁港	特定第3種	810	232	1,042	新三重漁協
	式見漁港	第2種	41	10	51	新三重漁協
野母崎	野母漁港	第2種	93	19	112	野母崎三和漁協
	樺島漁港	第2種	76	6	82	野母崎三和漁協
合計	4漁港	—	1,020	267	1,287	—

(出典：令和2年漁港港勢調査)

所管施設一覧

9 水産センターの種苗の生産・供給

水産センターにおける令和5年度種苗生産及び供給計画は次のとおりです。

令和5年度 長崎市水産センターの種苗生産及び供給計画

事業区分	魚種	用途	規格	数量	供給
水産種苗生産費	クマエビ	放流用	体長30mm	800,000尾	令和5年8月
	ガザミ	放流用	全甲幅10mm	200,000尾	令和5年7月
	クロアワビ	放流用	殻長24mm	35,000個	令和5年4月
	アカガイ	放流用	殻長20mm	10,000個	令和5年11月
	イワガキ	養殖用	種板 1枚10個程度	10,000枚	令和5年11月
	シマアジ	養殖用	全長70mm	45,000尾	令和5年5月

	長崎ペンギン水族館	野母崎高浜海岸交流施設
設置場所	長崎市宿町3番地16	長崎市高浜3963番地3
設置年月日	平成13年4月22日	平成26年7月15日
設置目的	市民にペンギン及び水族とのふれあいの場を提供することにより市民の自然環境に対する意識の高揚を図るとともに、健全な余暇の活用に資する。	市民に自然と親しみながら憩う場、地域交流の場及び地域の情報を発信する場を提供し、もって市民の福祉の向上及び地域の振興に資する。
管理運営	【指定管理者】 (一財)長崎ローブウェイ・水族館	【指定管理者】 高浜スカイアンドシー
職員配置	—	—
施設概要	<p>◆施設の内容</p> <p>1 水族館ゾーン</p> <p>①水族館本体 鉄筋コンクリート造2階建 延床面積 2,694㎡ 亜南極ペンギン水槽、温帯ペンギン水槽 長崎の海水槽、ブルーブック水槽、タッチプール 他</p> <p>②コガタペンギン飼育展示舎 鉄筋コンクリート造2階建 延床面積 548㎡ コガタペンギン飼育展示舎、保管室</p> <p>③予備飼育棟：鉄骨造平屋建 延床面積 244㎡</p> <p>④展示生物数等 約267種類、約7,635点（うちペンギン：9種類、187羽）</p> <p>2 自然体験ゾーン</p> <p>①ビオトープ 長崎の「里山」、自然河岸復元 延面積 4,300㎡ 自然河岸延長 250m</p> <p>②海浜部 自然石突堤 180m、人工海浜 5,000㎡ 散策路 200m、タイドプール 100㎡、 ふれあいペンギンビーチ 他</p> <p>③海洋体験施設：軽量鉄骨造2階建 延床面積 272㎡ カヤック 30隻、シャワー設備 10基、休憩室</p> <p>3 駐車場 ①第1駐車場 127台 ②第2駐車場101台</p> <p>◆観覧料（1人1回につき） 大人 520円（団体 410円） 小人 310円（団体 250円）※幼児、小中学生</p> <p>◆年間観覧料（1人1年） 大人 1,250円 小人 730円 ※幼児、小中学生</p> <p>◆駐車料金 バス 最初の1時間 1,040円、その後の1時間 520円 バス以外 最初の1時間 200円、その後の1時間 100円</p>	<p>◆施設の内容</p> <p>1 遊泳面積 12,500㎡</p> <p>2 南棟 多目的(棟敷)スペース、 シャワー・更衣室、多目的トイレ、 カヌー艇庫、芝生広場</p> <p>3 北棟 喫茶スペース、テラス、事務室、 厨房、トイレ、倉庫、円形階段</p> <p>4 駐車場 交流施設横駐車場(約10台分) 道路横駐車場(約50台分)</p> <p>◆使用料 多目的スペース 夏期(棟敷)：大人 830円/日 小中学生 410円/日 夏期以外：2,619円/時間</p> <p>駐車場 普通・小型・軽自動車520円/回 二輪自動車260円/回 温水シャワー 100円/回 コインロッカー 200円/回 カヌー 1人乗り523円/時間 2人乗り785円/時間 パラソル 628円/日</p>

所管施設一覧

	飛鳥磯釣り公園	高島海水浴場
設置場所	長崎市高島町1726番地	長崎市高島町2709番地5
設置年月日	平成9年7月20日	平成9年7月20日
設置目的	市民が海と自然に親しみながら行うレクリエーション等の活動の場を提供し、市民の福祉の増進に資する。	市民が海と自然に親しみながら行うレクリエーション等の活動の場を提供し、市民の福祉の増進に資する。
管理運営	【指定管理者】 西彼南部漁業協同組合	【指定管理者】 高島振興協同組合
職員配置	—	—
施設概要	<p>◆施設の内容</p> <p>1 北側釣り場 L = 60 m</p> <p>2 東側釣り場 L = 120 m</p> <p>3 南側釣り場 L = 192 m</p> <p>4 休憩所 鉄筋コンクリート造3階建 768㎡</p> <p>1階 空間部分</p> <p>2階 トイレ、シャワー室等</p> <p>3階 休憩所、倉庫等</p> <p>5 事務所 鉄筋コンクリート造1階建 40㎡</p> <p>6 売店 鉄筋コンクリート造1階建 20㎡</p> <p>◆使用料</p> <p>大人 520円(見学等 100円)</p> <p>小中学生 260円(見学等 50円)</p>	<p>◆施設の内容</p> <p>1 敷地面積</p> <p>砂浜面積 4,400 ㎡</p> <p>遊泳面積 20,090 ㎡</p> <p>養浜工 13,180 ㎡</p> <p>2 管理棟 鉄筋コンクリート造2階建 235㎡</p> <p>1階 男女温水シャワー室</p> <p>水洗トイレ、更衣室</p> <p>無料水シャワー</p> <p>多目的トイレ</p> <p>2階 監視人室、テラス</p> <p>3 女子温水シャワー室(棟) 46㎡</p> <p>4 売店 6棟(25㎡×6)</p> <p>◆使用料</p> <p>温水シャワー 200円</p> <p>コインロッカー 100円・200円</p>

所管施設一覧

	高島ふれあいキャンプ場	長崎市伊王島海水浴場交流施設
設置場所	長崎市高島町2709番地5	長崎市伊王島町1丁目2129番地
設置年月日	平成9年4月1日	平成12年7月1日
設置目的	市民が海と自然に親しみながら行うレクリエーション等の活動の場を提供し、市民の福祉の増進に資する。	市民に海水浴の休息の場及び地域交流の場を提供し、市民の福祉の向上に資する。
管理運営	【指定管理者】 高島振興協同組合	【指定管理者】 ㈱KPG HOTEL&RESORT
職員配置	—	—
施設概要	<p>◆施設の内容</p> <p>1 敷地面積 2,957 ㎡</p> <p>2 常設テント 10基</p> <p>3 炊飯棟 2棟</p> <p>4 バーゴラ 1棟</p> <p>◆使用料</p> <p>大人 100円</p> <p>小中学生 50円</p> <p>台座付テント 1,571円</p> <p>組立式テント 523円</p> <p>バーベキューセット 261円</p>	<p>◆施設の内容</p> <p>1 敷地面積 4,723㎡</p> <p>2 建設面積 1,103㎡</p> <p>3 休憩舎棟 2棟 (364㎡×2)</p> <p>4 水廻り棟 167㎡</p> <p>温水シャワールーム</p> <p>ロッカールーム</p> <p>トイレ</p> <p>倉庫</p> <p>5 管理棟 91㎡</p> <p>管理室</p> <p>サービス室</p> <p>倉庫</p> <p>6 売店 2棟 (58㎡×2)</p> <p>7 プール 2箇所、芝生公園</p> <p>◆使用料</p> <p>棧敷料 大人 410円</p> <p>高校生 200円</p> <p>温水シャワー 100円</p> <p>コインロッカー 100円・200円・300円</p>

所管施設一覧

	長崎市水産センター	長崎市クルマエビ幼稚仔保育場
設置場所	長崎市牧島町1619番地	長崎市飯香浦町地先
設置年月日	昭和49年4月1日	昭和52年4月1日
設置目的	「つくり育てる漁業」を推進するため、有用水産種苗の生産及び供給を行うことにより、沿岸漁業の振興を図る。	栽培漁業の一環として放流するクルマエビの歩留率を高めるため、幼稚仔を一定期間自然の状態で中間育成する。
管理運営	長崎市	長崎市
職員配置	所長 1名、種苗育成係 3名、調査開発係 3名 再任用職員 1名、会計年度任用職員 2名	—
施設概要	1 敷地面積 13,548.1㎡ 2 管理棟 鉄筋コンクリート造 3階建 683.5㎡ 3 取水施設 ドルフィン式鋼製 L=4.2m 4 ろ過機械棟 鉄筋コンクリート造 3階建 205.6㎡ 5 魚類生産棟 鉄骨造 1部2階建 778.3㎡ 6 ウニ生産棟 鉄骨造平屋建 782.4㎡ 7 甲殻類生産棟 鉄骨造 1部2階建 579.6㎡ 8 貝類生産棟 鉄骨造平屋建 308.2㎡ 9 親魚育成棟 鉄骨造 2階建 215.0㎡ 10 餌料培養水槽・ウニ飼育水槽 11 調餌冷蔵庫棟 鉄骨造平屋建 151.8㎡ 12 浮棧橋 FRP被覆鋼製 4m×8m 連絡橋 L=15m 13 海上いかだ 1台 14 管理・作業船 3隻 15 作業員控室棟 木造2階建 108.3㎡	1 人工干潟 4,877㎡ 2 外郭施設 防波堤 L=110m 突堤 L=19m 3 給排水施設 取水棧橋 L=80m 取水管(150 ^φ) 80m×1本 4 水流発生装置 水車式 4台 ジェット噴射式 2台 5 関連道 幅員3.5m L=285m

長崎市の主な水産業振興制度

- 1 新規漁業就業促進事業費補助金 1-19
 - 1-1 漁業就業実践研修 1-19
 - 1-2 新規着業者フォローアップ 1-19
- 2 水産種苗放流事業費補助金 1-20
- 3 水産多面的機能発揮対策費 1-21
- 4 長崎市漁業資金債務保証料補助金 1-22
- 5 魚食普及事業 1-23
- 6 新たにチャレンジ水産経営応援事業 1-24

1 長崎市新規漁業就業促進事業費補助金

～ 新規の漁業就業者が行う漁業の研修等にかかる経費に対する支援制度 ～

1-1 漁業就業実践研修事業

区分	補助の対象となる者	補助額	補助対象期間
(1) スマート人材育成（一本釣、延縄、刺網、小型定置網等の独立型漁業）	漁業協同組合の長が推薦する 60 歳未満の者で、次に掲げるいずれかに該当するもの ア これまでに 1 年間を超えて、主として漁業に従事した経験がなく、新たに漁業を始める者。ただし、漁家子弟にあっては、次のいずれかに該当するもの （ア） 漁家から生計独立した者 （イ） Uターンした者 （ウ） 学校卒業後 3 年以内であって複数の漁業種類等の研修に取り組む者 イ 雇用型漁業から独立型漁業へ転換する者	(1) 研修費（月額） 138,000 円 ※ 2 親等以内の親族と生計を一にする者は 100,000 円 (2) 漁業経費（年額） 50,000 円 [対象経費] 保険加入料、漁業資材購入費、その他研修に必要な経費	2 年間 又は 3 年間
(2) 地域漁業習得（定置網、養殖、まき網漁業等の雇用型漁業）			1 年間
(3) 漁業継承	上記アの漁家子弟のうち、（ア）から（ウ）まで以外の者であって、直近 3 年の漁家の平均漁業所得が 5,000,000 円未満の者	(1) 研修費（月額） 1 年目 100,000 円 2 年目 80,000 円 (2) 漁業経費（年額） 50,000 円 [対象経費] 保険加入料、漁業資材購入費、その他研修に必要な経費	2 年間
(4) スマート人材育成の指導者支援	経営者育成コースの指導を行う者であって、漁業協同組合の長が推薦する者かつ前年の水揚金額が 180 万円以上の者。	指導者謝金（月額） 150,000 円	指導を行う期間

1-2 新規着業者フォローアップ事業

(1) 対象者

漁業就業実践研修事業を終了した者で、かつ、研修終了後、1 年以内に着業した者であって、漁業就業実践研修事業の研修期間も含め 1 年以上独立型漁業に従事している者

(2) 補助額

① 漁業経費：50,000 円／月（3 年間）

② 初期投資：500,000 円／年（1 回限り）

2 水産種苗放流等事業費補助金

～ 水産種苗の放流に対する支援制度 ～

(1) 事業の目的

資源の維持及び増大を図るための取組を支援し、つくり育てる漁業の振興に資することで、漁家経営の安定を図ることを目的とする。

(2) 事業の実施主体

市内漁業協同組合

(3) 補助の対象となる取組

- ① 水産種苗等の放流
- ② いか産卵場の造成

(4) 補助の対象となる経費

- ① 水産種苗等の放流
- ② いか産卵場の造成

種苗等の購入に要する経費
資材費の購入及び用船料等

(5) 補助率

- ① 水産種苗等の放流
- ② いか産卵場の造成

補助対象経費の 1/2 以内
補助対象経費の 1/2 以内



抱卵イセエビ放流状況



いか産卵場設置（アオリイカの産卵状況）

3 水産多面的機能発揮対策支援費

(1) 事業の概要

国の水産多面的機能発揮対策事業を活用し、漁業者等が行う水産業や漁村の多面的機能（環境・生態系保全、海の安全確保等）の発揮に資する地域の活動に対し支援を行う。

(2) 事業の実施主体

市内各地区の活動組織 13 組織

（野母崎、三和、三重、橘湾、外海、西彼南部、琴海、福田、茂木、深堀、高島及び網場地区活動組織並びに大村湾地域漁業環境保全会）

(3) 事業内容

各活動組織による藻場回復や漂流・漂着物、堆積物の処理等の各種取組み（食害生物の除去、漂流・漂着物等の処理、教育・学習活動など）

①食害生物の除去

磯焼けの原因の一つであるムラサキウニやガンガゼなどのウニ類、アイゴやイスズミなどの植食性魚類といった食害生物を除去することで、藻場の減少を抑える。



潜水による除去作業



植食性魚類の除去

②教育・学習活動

活動組織の構成員による講義や現地での体験活動を通して磯焼けの現状を理解するとともに、その対策としての藻場の保全（海藻の種苗投入、食害生物の除去）などについて、より身近な問題として興味関心を持ってもらい、理解を図る。



地元小学校での講義



現地での体験活動

4 長崎市漁業資金債務保証料補助金

漁業資金の融資を受けた漁業者等の債務に付された信用保証料について、その一部を市が補助する制度で「長崎市漁業資金債務保証料補助金交付要綱」に基づき、平成 14 年度から実施している。漁業近代化資金及び漁業経営改善支援資金の貸付を受ける際、長崎県漁業信用基金協会に債務保証料を支払うが、その保証料について市に補助申請をし、市が適当であると認めた場合、その保証料の 1/2 を補給するもの。

目的	漁業資金の融資を受けた漁業者等の債務に付された信用保証について、当該漁業者等の負担の軽減を図り、経営の健全化及び事業の安定化に寄与するため、長崎市漁業資金債務保証料補助金を交付するもの。
対象	漁業資金の融資を受けた者（漁業協同組合・水産加工業協同組合の組合員等）
対象資金	漁業近代化資金、漁業経営改善支援資金
補助率	保証料の 1/2
補助期間	資金借入後から 5 年

5 魚食普及事業

	令和4年度の 主なイベント	開催月												期日	
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
旬の魚イベント 拡大支援費	伊王島朝市 「春の大売り出し」		■												5/29
	戸石はも・かに祭り				■										7/24
	もぎたて新鮮市 「大漁まつり」														中止(8月)
	伊王島豊漁祭														中止(10月)
	戸石とらふぐ・かき祭り (かき焼バーベキュー)									■	■	■	■	■	11/6～3月末
	伊王島朝市 「秋の大売り出し」						■								9/25
	もぎたて伊勢エビまつり (応援キャンペーン)						■								9/1～9/30
	とらふぐ料理フェア									■					11/6～11/28
	長崎さかな祭り									■					10/9
	長崎県水産加工振興祭 展示即売会										■				12/9～12/11
長崎食の博覧会						■								9/23～9/25	
ながさき実り・恵みの感謝祭											■			11/27～11/28	

6 新たにチャレンジ水産経営応援事業(県単独の補助事業の間接補助)

(1)事業の目的

長崎県が、長崎県総合計画及び長崎県水産振興基本計画において定められた基本理念「多様な人材が活躍し、環境変化に強い持続可能な水産業と賑わいのある漁村づくり」に基づき、漁村地域の活性化のために、将来地域の中心となる若い漁業者等が行う経営力強化の取組及び、漁協等が行う計画的な施設整備を支援するもので、市は県の間接補助と併せて継ぎ足し補助を行うもの。

(2)補助対象事業・取組、補助対象者・補助率

事業種目<事業種類>	補助対象事業・取組	補助対象者・補助率
地域施策展開支援対策事業	「浜の活力再生プラン」、「地域別施策展開計画」に基づく持続可能な水産業の実現を目指す地域一体となった取組	
(1)地域でチャレンジ強い漁業基盤づくり	海業推進プランに基づく、海業や6次産業化の推進に必要な施設等の整備事業	漁協に対し、左記経費の2分の1以内。但し、市が県費以外に当該経費の6分の1以上補助する場合に限る。
(2)省エネ・省人化、カーボンニュートラル支援対策	省エネ・省人化、カーボンニュートラルの推進による漁協や漁業者の経営力強化につながる共同利用施設の持続化、新たな生活様式に対応した水産物の供給体制の整備等に必要な取組	漁協に対し、左記経費の2分の1以内。但し、市が県費以外に当該経費の6分の1以上補助する場合に限る。